

---

---

# 教師と保護者で子どもへのかかわりを考える

- 共に学び合う子育てセミナー -

桐生市立梅田南小学校

主 題 豊かな心を育みひとりひとりの学びを実現していく教育活動

校 長 中村 敏雄

児童数 204名

学級数 9学級

執筆者 教諭 深田 直宏

住 所 〒376-0601 桐生市梅田町2丁目179

電 話 0277-32-1400

U R L <http://www.umedaminami-e.ed.jp/>

研究所 桐生市教育研究所



---

---

## 1 子育てセミナーに至る経緯と考え方

### (1) 先生と子どものかかわり

授業中、積極的に自分の考えや意見を発言する子どもがいる。その反面、自分の意見や考えが言えない子どももいる。このように発言のできない子どもは、何が原因で発言ができないのだろうか。その子の個性、学級の人間関係、恥ずかしさ、授業の課題設定の工夫や手立ての問題……。その他に色々な原因が考えられるだろう。しかし、低学年の頃の子どもたちの多くは、話をするのが好きである。教師が聞いてくればたわいもない話をいくらでも楽しそうに話す。それが、学年が上がってくるにつれ、だんだんと話をしなくなる。高学年になると、特に授業中、発言する子が固定化してくる。もともと話をすることや表現をすることが好きだった子どもたちが、だんだんとそれをしなくなるのはなぜだろうか。

授業中、私たち教師は日々授業の中で子どもに問い（発問）を投げかける。しかし、その「問い」には、常に「答え」が用意されている。私たち教師は、常に子どもたちに問い、そして、用意された「答え」に沿った反応を

意識するしないに関わらず求めている。そのやり取りの中で、教師が意図しなかった子どもの反応や誤答を切り捨てていないだろうか。「その子の思いや考えを大切にする」「誤答も大切にする」と言いながらも、日常のやり取りの中で、私たち教師は無意識のうちに「正しい答え」や「求めている答え」を大切にしていないだろうか。

教室の中で子どもたちが自分を表現し豊かにかかわり合い学んでいくためには、まず教師が子どもの声にしっかりと耳を傾け、ひとりひとりの考えを大切にする姿勢を持たなければいけない。特に学習の遅れがちな子どもの声こそ大切にされるべきである。その教師の姿勢が、学校において子どもたちに安心感と受容感を与え、そのことが子どもたちの豊かな心を育む土壌を築き、子ども同士の豊かなかかわり合いと学び合いへ結びついていくと考えられる。

### (2) 豊かな心の育成と学力の向上は一体

本校は、校内研修において5ヵ年計画で学力の向上に取り組んできた。授業改善を中心に置きながらも、ドリル学習の時間の設定、漢字・算数コンテストの実施、生活実態調査、教科に対する愛好度調査等々行ってきた。その結果、本校では学力の向上を図る上で大切

なことは、「授業の充実」と「家庭との連携」であると考えた。そして、その2つの基盤になるのは、子どもたちの意欲やセルフエスティームの向上等、情意面でのかかわりの充実であり、まずは子どもたちの豊かな心の育成を図る必要があると考えた。

毎日の授業の中では、当然、課題の設定や指導過程を、全ての子どもが取り組めるよう工夫し、分かる授業を行うことが大切である。それと同時に、情意面を育てていくためには、学級の中の全ての子どもに声を傾け、教師が一人一人の子どもを大切にしようとする姿勢が重要である。それを子どもの側からみれば、「先生は、ぼくの考えもちゃんと聞いて、大切にしてくれる」と感じられるようにすることである。そのような授業環境の中で、子どもは初めて自分を表現するようになってくると考えた。

また、家庭との連携においては、学級懇談会への参加、総合的な学習の時間の補助、PTA行事への参加、子どもの登下校の安全の確保等々いろいろあり、これらは大切なことである。しかし、ここで言う連携とは、もっと質的なものである。学校と家庭で連携し、子どものセルフエスティーム（自尊感情）を向上させていくような子どもへのかかわりに関する連携である。

### (3) 親と子どものかかわり

一方、子どもたちは、家庭で保護者とどのようなかかわりを持っているのだろうか。これは各家庭によって様々であろう。例えば、宿題をよく忘れて、家庭学習の習慣の身に付かない子どもの保護者は、子どもとのかかわりを疎かにしているのだろうか。特別な場合を除けば、決してそのようなことはないはずである。私たちは「家庭の教育力の低下」という簡単な言葉で片付けてしまいがちであるが、子どもに基本的な生活習慣、学習習慣の身に付けられない保護者の多くも、子どもをより良くしたいと願っているはずである。ただ、保護者自身に子育てに関してのいわゆる「成功経験」が少ないため、願いとは裏腹に空回りしてしまうのではないだろうか。そのような家庭では、保護者も、子どもに対し

て、つい否定的なかかわり方が多くなってきてしまうのではないだろうか。反対に、基本的な生活習慣や学習習慣の身に付いている子どもも、保護者が子どもの思いを受け止めてくれているとは限らない場合もあるであろう。

また、それぞれの保護者同士での情報交換も行われているが、保護者が子育てで本当に悩んでいることについては、相談できる場所や人が少ないのが現状ではないかと感じられる。

家庭のこのような状況を考えた時、保護者同士が子育てについて話し合える「場所」が必要ではないかと考えた。またその「場所」が学校教育とかかわりを持ちながら、豊かな学びの実現につなげていこうと考えた時、教師もその中に入り、保護者と共に考え、同じ方向（目標）に向けて子どもに関わっていけば、子どもはより生き生きと日々の生活を送っていくことができるのではないだろうか。それには学校が核となり、学校教育を中心としたコミュニティーを形成していくことで、学校と家庭が、どのような子どもを育てたいかという目標や考え方のレベルで連携ができるのではないかと考えた（図1）。

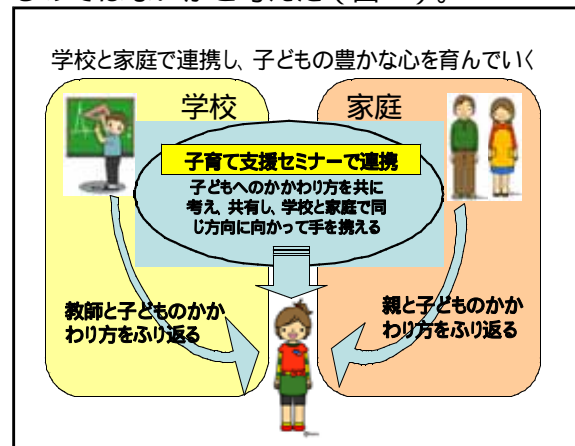


図1 学校と家庭を結ぶ子育てセミナー

そして、その一つの手段として、校内研修の中に年間6回の「子育てセミナー」を設定した。

以下、この「子育てセミナー」について中心に述べる。

## 2 子育てセミナーについて

(1) 校内研修組織（子育てセミナーの位置づけについて）

本校の校内研修の特徴はその組織（図2）にあるともいえるだろう。

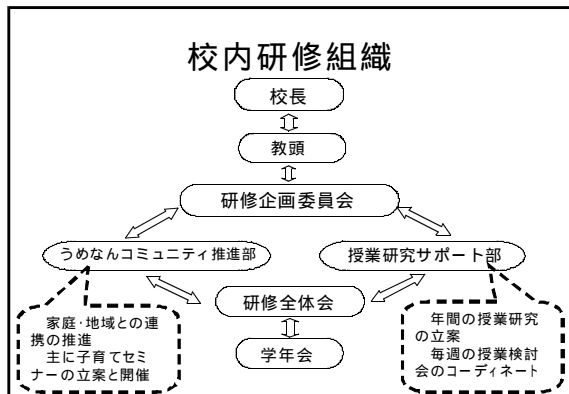


図2 校内研修組織

子どもたちの豊かな心を育てていくのは、学校においてその中心は授業である。授業の中に積極的生徒指導の考えを入れながら取り組むことで、子どもたちの学習への意欲を高めると共に、セルフエスティームや自己有用感を高めていくことができると考える。そのため図2に示される「授業研究サポート部」を設定している。先生と子どものかかわりを検討するためには、「研究授業」や「一人一授業」だけでは不足である。公開を前提にしたいいわゆる特別な授業ではなく、日々行われている日常の授業を頻繁に取り上げ検討することが大切である。それにはいつ誰が授業を公開し検討会を行うかをコーディネートする必要がある。「授業研究サポート部」はそのための部である。

それに対し「うめなんコミュニティ推進部」が、学校と家庭・地域との連携を図るための部である。特に連携を図るための柱として「子育てセミナー」全6回の立案と運営を行った。

(2) 子育てセミナーの実施内容について

この「子育てセミナー」は、群馬県総合教育センター著、亀口憲治監修による「体験型の子育て学習プログラム15 来てよかったと喜ばれる新しい保護者会」（図書文化）を参考にした。また実際の取り組みに当たっては、総合教育センター・生徒指導相談グループの指導助言を受けながら行った。

子育てセミナーへの参加は、全家庭に呼びかけ、希望者の参加によって行った。全校には図3の申し込み用紙を配布した。

子どもに自信を持たせたい！  
子どもにやる気を起こさせたい！  
子どもをついしかってしまおう。

### 親と教師で学び合う子育てセミナー

文相館（第2館・中層中庭、第3館：7月と第4館：8月）にて予定  
毎日のように子どもたちのやりこりを繰り返し、どう関わったらよいかわからないお母さんよう！

- 日時：平成19年5月30日（水）午後3時30分～5時00分
- 対象：梅田南小学校保護者の方々
- 会場：図書室（3F）＊参加人数によっては体育館に変更
- 内容：講話やロールプレイによって子どもへの関わり方を見直す。テーマ「子どものやる気を起こさせる関わり方」
- 第1回講師（梅田南小学校職員）

＊筆記用具、スリッパをご用意ください。

○お子さんの学年を教えてください。【1・2・3・4・5・6】  
＊兄弟姉妹が居る場合はすべての学年に○をつけてください。

○このセミナーへの参加について、○をつけてください。

・参加する (参加保護者名) \_\_\_\_\_ (所属校) \_\_\_\_\_

・参加しない \_\_\_\_\_

○お子さんのことで気になることがあったら参加、不参加に関わらず、ぜひご意見をください。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

＊切り取り線から下を5月25日（金）までに担任に提出してください。

図3 全校に配布した申し込み用紙

子育てセミナー1回目から6回目までの内容は段階的に変化させ、図4のようにに構想した。（前掲書，p10）

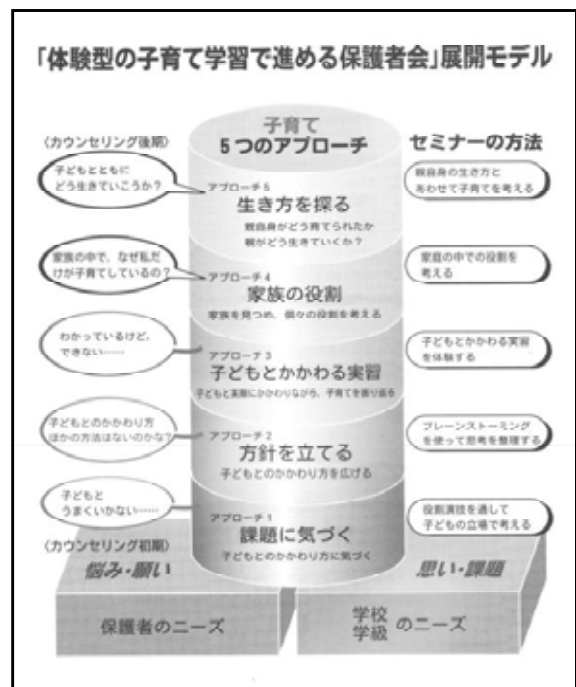


図4 セミナー全6回の構想(注1)

なお1回目から6回目までのテーマは以下のように設定した。

~~~~~  
**第1回「子どものやる気を起こさせるかかわり方」**

5月30日実施 参加保護者47名

ロールプレイを見ながら、子どもの気持ちになって考える(図5)。

~~~~~  
**第2回「子どもとのかかわり方を探る」**

6月20日実施 参加保護者37名

小グループごとにブレインストーミングで子どもへのかかわり方を出し合い、まとめごとに整理する(図6)。

~~~~~  
**第3回「子どもと実際にかかわりながら、子育てを振り返る」**

7月19日実施 参加保護者48名

参加児童 63名

粘土でお弁当を作る活動に取り組みながら、その場で子どもとどうかかわればよいかを考える(図8)。

~~~~~  
**第4回「友達同士の信頼感と絆を育む」**

10月16日実施 参加保護者15名

子ども同士のケンカの場面を教師がロールプレイで演じ、親としてどのように子どもにかかわっていけばよいかを考える(図9)。

~~~~~  
**第5回「家族の関係から子育てを考える」**

11月14日実施 参加保護者26名

家族ひとりひとりを円で示し(自家像)それぞれのつながりを見つめ直し、子どもの問題を家族で考えていこうとする姿勢を考える(図10)。

~~~~~  
**第6回「子育てを振り返り、これからの生き方を考える」**

12月5日実施 参加保護者28名

自分の生き方と子どもの生き方を2つの円の大きさで表すことで、保護者自身の生き方と子育てをどう両立させていくかを考える。



図5 第1回のロールプレイを見る保護者



図6 第2回のブレインストーミングの様子

桐生市立梅田南小学校PTA 子どもとのかかわり方 10の秘訣				
全学年に共通する かかわり方	●秘訣①「言葉や子どもへのかかわり方を話し、学び方を考える」 ○子どもとのかかわり方が、子どもの成長に大きく影響することを実感しよう。 ○子どもがどう思うか、親でも想像してみよう。 ○言葉で相手の気持ちに寄り添おう。	○自主的に取り組み、工夫を凝らそう。 ○学校だけでなく家庭でも実践しよう。 ○子どもが「たいへん」の声で構わないよう。		
	●秘訣②「思いやり(思いやり)の心を育む」 ○おはよう/おやすみ/ありがとうを伝えよう。 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。	○思いやりを伝える機会を設けよう。 ○学校だけでなく家庭でも実践しよう。 ○子どもが「たいへん」の声で構わないよう。		
	●秘訣③「子どもを褒める(褒める)」 ○褒め言葉は必ず伝えるよう。 ○褒め言葉は具体的に伝えるよう。 ○褒め言葉は言葉だけでなく行動でも表そう。	○褒め言葉は必ず伝えるよう。 ○褒め言葉は具体的に伝えるよう。 ○褒め言葉は言葉だけでなく行動でも表そう。		
	●秘訣④「基本的な生活習慣・約束の徹底」 ○約束は必ず守るよう。 ○約束は必ず守るよう。 ○約束は必ず守るよう。	○約束は必ず守るよう。 ○約束は必ず守るよう。 ○約束は必ず守るよう。		
	●秘訣⑤「思いやり(思いやり)の心を育む」 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。	○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。		
	●秘訣⑥「思いやり(思いやり)の心を育む」 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。	○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。 ○思いやりは言葉だけでなく行動でも表そう。		
各学年に 合わせた かかわり方	●秘訣⑦「子どもと向き合い、一緒に時間を大切にする」 ○子どもの時は、親も一緒に楽しむよう。 ○子どもの時は、親も一緒に楽しむよう。 ○子どもの時は、親も一緒に楽しむよう。	●秘訣⑧「自立に助けを求めながら生きていく」 ○自立に助けを求めながら生きていく。 ○自立に助けを求めながら生きていく。 ○自立に助けを求めながら生きていく。		
	●秘訣⑨「友達同士のつながりの中で社会性を育てる」 ○子どもと友達をつくらせよう。 ○子どもと友達をつくらせよう。 ○子どもと友達をつくらせよう。	●秘訣⑩「言葉について話し合う」 ○言葉について話し合う。 ○言葉について話し合う。 ○言葉について話し合う。		
	●秘訣⑪「言葉について話し合う」 ○言葉について話し合う。 ○言葉について話し合う。 ○言葉について話し合う。	●秘訣⑫「言葉について話し合う」 ○言葉について話し合う。 ○言葉について話し合う。 ○言葉について話し合う。		
一時的な 発達 の特徴	●自分らしく頑張ることが大切であることを知る時期 ●やりたいこともやらなくてはいけないことを経験する時期	●やらなければならない事を自分で進んで取り組んでいく時期 ●やらなければならない事を自分で進んで取り組んでいく時期	●友達に対する信頼感や絆を築いていく時期 ●対人関係が発達して他者との比較や自己評価ができる時期	
	自主性のめばえ	自主性の発達	社会性の基礎の発達	

図7 第2回でまとめた「子どもとのかかわり方10の秘訣」全家庭に配布



**表2 参加した保護者の感想**

- ・みなさん同じ経験をし、同じ事に悩んでいる事を知り、少しホッとしました。
- ・自分ではどうしたらよいか分からなかったことも、他のお母さん達の話聞いて楽になった気がします。
- ・日頃、こんな事を思うのは一度もなかった。今回こういうセミナーがあって、改めて考えることがあったのでよかった。
- ・親子で一緒に何かをしたり、作ったりすることは、やっぱり必要なのだと思いました。いいきっかけになったように思います。
- ・毎日忙しく過ぎていきますが、子どもとふれあう時間はとても大切なことと改めて感じました。
- ・今日までの親子関係を反省するきっかけになりました。母親の在り方がそのまま子どもに引き継がれてしまうと思ったら、怖くなりました。物事を落ち着いて考え、また、失敗してもそれを生かしていこうと思いました。
- ・親が子どものためと思ってしていることは、子ども自身が自分で考えて行動する力を奪ってしまうこともあるのだと気付かされました。
- ・いろいろなことを感じさせられました。次は自分が「変わる番」ですね。「自分が変わらないと子どもも変わらない」、子育てががんばります。
- ・自分の事ばかり考えていて世間体を気にしていたことに気付きました。子どものよいところを見てやりほめてあげたいです。時間を取り会話して家族の絆を深めたいです。
- ・毎回とても勉強になりました。毎日、子どもの成長と共に親も考えさせられ成長してきているのだなと思いました。
- ・毎回とても考え深く、自分を振り返るきっかけになり、ありがたかったです。考え方を少し変えるだけで、子どもとの信頼も強くなるのを感じながら楽しませてもらいました。今…子どもの成長が心の面や外側の面でも見てとれる気がして、とても子育てが楽しくなっています。親も子ども成長途中のようです。
- ・セミナーで聞いたことを実践できている自分もあり、感謝しております。今年度に限らず他の保護者・先生方と子育ての企画があると大変うれしく思います。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

子どもの豊かな心が育ったか検証することは難しいが、明らかに変化があったと思えることがいくつかある。まず、その1つは、保健室に行く子が激減したことである。ここでいう「保健室に行く子」というのは、ケガや

病気で保健室へ行くのではなく、明らかに気持ちの問題から体調不良を訴えたり、話を聞いてもらいにいく子どもたちである。

次に、学級の中で、生徒指導上気になる児童に変化があったことである。気持ちの落ち着きが見られ、学級の中で他の子どもたちと共に過ごせるようになったことである。

また、養護教諭から見て、教員集団の変化も感じられたという。具体的には、学級担任が気になる子に声をかけ励ます姿が頻繁に見られるようになり、学級に子どもの居場所ができてきたようである、ということであった。

そして、家庭と学校との連携という面では、それまで一度も話したこともない担任外の子どもの保護者からも、気軽に声を掛けられることが多くなった。また、保護者が以前よりも担任に相談をしにくるようになったのではないかと感じられる。その際も、子育てセミナーにおいて共に考え話し合ったことが、暗黙のうちに共通認識されているように感じられた。これは複数の教員が同じように感じていることである。

以上のことから、子どもへのかかわりを共に考える子育てセミナーを実施したことで、教員集団及び、子どもたちの変容を促すと共に、学校と家庭における質的な連携が図れたのではないかと考えている。

#### (2) 課題

本校は、小規模校ということもあり、今回は全家庭を対象とした。しかし、もっと多くの保護者が参加する学級懇談会などを利用して、その学年の実態や発達段階に応じてテーマを設定して取り組むと、より効果があげられるのではないかとと思われる。

#### 引用・参考文献

群馬県総合教育センター著、亀口憲治監修  
「体験型の子育て学習プログラム15 来てよかったと喜ばれる新しい保護者会」(図書文化)注1：P10より引用